

世界遺産地区における観光地化によるまち並みの変容に関する研究  
-マレーシア・ペナン州ジョージタウンのキャンベル通りを対象として  
A Study on the Transformation of Townscapes Due to Tourism in World  
Heritage Sites  
-Focusing on Campbell Street in George Town, Penang, Malaysia

山家研究室 顔暁天

**研究概要：**マレーシア・ジョージタウン世界遺産地区（GTWHS）のキャンベル通りにおける観光地化の影響を分析することを目的としています。特に、有形文化遺産（建築の外観や街並み）と無形文化遺産（伝統産業や地域文化）の変化に注目しました。

**研究目的：**本研究はGTWHSに対する観光地化の影響に焦点を当てて、伝統的な通りにおける建築の外観や業種の変化を分析し、観光地化がまち並みを構成する文化遺産に与える影響を明らかにすることを目的とする。

**研究成果：**

1) キャンベル通りの建築外観と業種の現状

キャンベル通りは、かつて商業と居住が共存する通りであったが、2013年から2024年にかけて商業専用地へと転換し、住民の流出が進んだ。調査の結果、146軒の店舗のうち63%が近代的な改修を受け、特に開口部（ドア・窓）と看板の変更が顕著であった。業種構成は小売業・卸売業・飲食業を中心に6種に分類され、近年は飲食業の増加とともに、小売・卸売業の減少が進んでいる。

(2) 建築外観と業種の変化

2021年から2024年にかけて、業種と建築外観が同時に変化した建物が41軒確認された。特に、卸売業から飲食業への転換時に外観変更が多く発生し、看板の大型化や開口部の改修が目立った。これは観光地化の進展に伴う、飲食業の視認性向上を目的とした改修と考えられる。

(3) 伝統職業の変遷

2012年時点でキャンベル通りには29軒の伝統職業があったが、2024年には21軒に減少した。特に、飲食店や宿泊施設へ転換した例が多い。一方で、一部の中薬薬局や乾物店は、観光客向けの商品展開により経営を維持しているが、依然として衰退傾向が続いている。

(4) 観光地化に対する認識

ヒアリング調査の結果、観光地化に対する評価は業種や立場によって異なることが明らかになった。観光客を主要顧客とする店舗では売上増加が見られる一方、地元住民向けの卸売業・小売業では経営悪化の懸念が示された。また、通りの利用者の意見も分かれ、観光地化による街の活性化を評価する声と、伝統的市場の減少を懸念する声が共存していた。

(5) 有形文化遺産への影響

観光地化の進行により、建築物の開口部や看板の改修が増加し、歴史的な街並みとの調和が失われつつある。業種転換による外観変更が加速し、伝統的な建築構造が近代的なデザインへと置き換えられつつある。

(6) 無形文化遺産への影響

観光地化により、伝統産業の衰退や業態転換が進み、地元住民の流出とともに通りの商業構造が変化している。一部の伝統職業は観光客向けのビジネスモデルへ適応することで存続しているが、多くは廃業の危機に直面している。さらに、通りの空間利用が観光業中心に変わることによって、地域コミュニティの伝統的な姿も変容しつつある。

**苦労した点や感想など：**

論文を作成するにあたり、現地で1か月間のフィールド調査を行いました。大変なこともありましたが、その分たくさんのことを学び、視野も広がったと感じています。山家先生と柏原先生には、研究テーマの選定から論文完成まで、一貫してご指導いただき、本当に感謝しています。また、論文提出前にパソコンが壊れてデータが消えてしまったのは残念でしたが、無事に論文を仕上げることでホッとしています。改めて、心から感謝申し上げます。ありがとうございました